

法政大学ボアソナード記念現代法研究所主催研究報告会について

2013.3. 28

1. 企画名・日時・スケジュール等

- ◆企画名 研究報告会「リヨンにおける梅謙次郎」
- ◆報告者 Béatrice JALUZOT (フランス・アジア研究所助教授 @リヨン)
- ◆開催日時 2013年5月25日
- ◆場所 法政大学市ヶ谷キャンパス現代法研究所附属会議室 (ボアソナードタワー 22階)
- ◆当日スケジュール 15時開催 17時30分終了 (最大延長 18時)
前半 1 時間を ジャリユゾ先生の報告、休憩をはさんで後半 1 時間程度を質疑応答・討論とする。
- ◆使用言語 日本語を使用

2. 主催

法政大学ボアソナード記念現代法研究所

所長・ボアソナード資料収集委員会委員長 柳明昌教授

商法専攻

3. 企画担当者

同上研究所運営委員・ボアソナード資料収集委員会副委員長 川口由彦法学部教授

日本法制史専攻

4. 企画趣旨

上記現代法研究所は、毎年、法律学、政治学の研究プロジェクトを設置・運営しているが、それと併行して、明治期の東京法学校、和仏法律学校 (いずれも法政大学の前身) で法学教育の中心を担ったふたりの法学者、ギュスターブ・ボアソナードと梅謙次郎について資料収集部門を設置し、関係資料の収集・分析を行っている。本企画は、この資料収集・分析の一環として開催するもので、梅謙次郎のフランスでの生活、勉学、研究についての知見を深めることを目的とする。

5. 報告概要

梅謙次郎は、1884年に司法省法学校を首席で卒業し、翌年、政府留学生としてフランス・リヨンに渡った。梅が学んだリヨン大学法学部は、創立からまだまもない時期にあり、若々しい躍動感に満ちあふれていた。数十年間法学部長職にあったカイユメールは、スタッフ人事に手腕を振るい、フランス各地から著名な研究者をリヨンに集めていた。

梅は、1889年に「和解論」で博士号を取得しているが、これに対し、カイユメール学部長は、大学年報で特に梅について数頁をさき、賞賛している。

また、梅が学んだ商法の教授・タレールは、その後パリ大学にスカウトされていく人材で、タレール死去の際は梅が「法学協会雑誌」に追悼文を載せている。

報告では、梅が学んだリヨン大学法学部は、どのような特徴があり、スタッフ構成はどのようなになっていたのか。この大学で梅はどのように法学を学んだのかという、日本の梅研究ではほとんど触れられてこなかった事柄を取り上げる。